

## 第2回 鎌倉市廃棄物減量化及び資源化推進審議会 議事録（概要）

日時 平成25年11月29日（金）17時30分～19時40分

場所 鎌倉市役所 第3分庁舎2階 822会議室

出席 深野会長、亀山副会長、浅川委員、久保田委員、大道委員、奴田委員、橋詰委員、保坂委員、  
牧田委員

<事務局>

環境部 石井部長、小池次長、松永次長、川村次長

資源循環課 小澤担当課長、谷川担当課長、瀬谷課長補佐、佐藤担当係長、奥貫担当係長  
安倍主事、片桐職員

環境施設課 小柳出課長、斉藤担当係長

環境センター 遠藤担当課長、佐藤担当課長

ごみ減量・資源化推進担当 松井担当主査

傍聴者 6名

議題 1 最適な資源化のあり方に関する評価項目について  
2 市民意見の調査について

報告事項 1 戸別収集・有料化について  
2 ごみ焼却量の状況について

### 議題 1 最適な資源化のあり方に関する評価項目について

大道委員：資料1－3は、同じ品目をサーマルリサイクルした場合とマテリアルリサイクルした場合で比較するということですか。

小澤担当課長：そのように考えています。例として紙類・布類を記載しておりますが、現行はマテリアルリサイクルをしていますので、マテリアルの欄には現状の数値を記載し、サーマルの欄にはサーマルリサイクルした場合を数値化して比較するものです。また、市民目線や他市事例については、資料1－3のような表とは別掲にする予定です。対象品目の組合せとしているのは、複数品目をまとめて資源化する場合も想定されると考え、組合せと表記いたしました。対象品目や組合せについては、調整したいと思います。

大道委員：消費者目線で考えた時には、マテリアルリサイクルが優先されるような意識があるかと思いますが、数値で判断するというのでしょうか。

小澤担当課長：数値で示せるものは示していきます。

深野会長：安定的な処理の項目は数値化が難しいと思いますが、資料1－2の現状と課題と関連して考えるという考えでよいでしょうか。

小澤担当課長：安定的な処理の項目の危機管理、トラブルの有無に関しては文章で記載することになるかと思いますが。その内容は、資料1－2の現状と課題のエッセンスが入ってくると思います。

深野会長：現状の資源化はマテリアルリサイクルが多いと思いますが、サーマルの欄にはサーマルリサイクルした場合を仮定した数値が入ってくるということですか。

小澤担当課長：そのような考えで作成しています。

浅川委員：経済性は、比較の際の重要な要素だと思います。サーマルリサイクルの場合のトンあたりの

単価を算出するのは、施設の稼働率や処理方法によっても大きく関わってくるので難しいと考えますが、どのようにデータとして作成することになるのでしょうか。

小柳出課長：エネルギー回収の考え方や全体の燃やす量とも関連しますので、今後わかりやすいような形で資料をお出ししたいと考えています。

浅川委員：現在の焼却施設の処理費用の考え方もありますし、将来施設を整備する際の費用もあるかと思えます。売電等の利益の部分も含めて、コストとして対比するのですか。

小柳出課長：ごみ焼却施設基本構想でもある程度の一定のシミュレーションをしています。それに直近の維持管理の状況、また先進施設の稼働状況や経費などを参考にしながら、ある一定の条件下で比較したいと思えます。

深野会長：前提条件を書きいただかないと比較が難しいと思えます。

亀山副会長：収集までは一緒に、処理だけのコストが違うことを想定されているのだと思えますが、マテリアルリサイクルしようとするのと分別して収集しますが、サーマルリサイクルだと他の燃やすごみと一括で収集できますので、収集コストも変わってくると思えます。前提条件はしっかり書かれた方が良くと思えます。環境負荷はCO<sub>2</sub>しか書かれていませんが、おそらく他の環境負荷の可能性があるかと思えますので、欄が増えることになると思えます。

小澤担当課長：環境負荷の具体的な項目については、調整していきます。

久保田委員：関谷の最終処分場は使用することはないのですか。

小澤担当課長：現在も使用していませんし、今後も使用する予定はありません。

浅川委員：マテリアルリサイクルの危機管理の点から、資料 1－2 にある平成 20 年度の飲食用カン・ビン収集及びコンテナ配布業務委託契約の不履行について教えてください。

佐藤担当係長：当時契約していた株式会社大紀という収集運搬業者が、社内トラブルから急きょ収集を行わなくなり、職員等が対応したという経過がありました。

久保田委員：市民として申しますと、鎌倉市の地図もあまりわからないような大阪の業者が入札で安く落札し、収集の取り残しも多かったように記憶しています。

小池次長：それまでは、市内の業者に委託をしていたのですが、競争入札をしたところ、大阪を拠点とする業者と契約し、結果契約不履行となったということです。

深野会長：その後の収集運搬の契約に係る入札と随意契約の割合はどのようになっていますか。

瀬谷課長補佐：収集運搬の委託は、随意契約となっています。

浅川委員：資料 1－2 で記載されている売却料は、市の収益ですか。

瀬谷課長補佐：そうです。

深野会長：経済性の点では、資源物の売却益やサーマルをした場合の売電による売却益も視野に入れる必要があると思えます。リサイクルをする際のトラブルは、最近の鎌倉市ではありましたか。

佐藤担当係長：植木剪定材の資源化で、放射能の影響で堆肥化ができなくなり、資源化業者への排出を一時停止したということがありましたが、他は特にありません。

浅川委員：資源物などの不法な持ち去りの状況を教えてください。

佐藤担当係長：不燃物の中から携帯電話などを売却目的で持ち去る事例はありましたが、影響は大きくないと認識しています。

浅川委員：東京 23 区では古紙の持ち去りを日常的に目にすることがありますが、鎌倉市ではどうですか。

瀬谷課長補佐：古紙の持ち去りで判明した事例は、1 件ありました。収集運搬業者よりも市民の方から通報を受けることがありますが、多くはないと認識しています。

牧田委員：資料１－３の経済性の前提条件では、今後建設する焼却施設の減価償却や耐用年数等も考えていただければと思います。

小柳出課長：耐用年数等、調整していきたいと思います。

深野会長：ペットボトルと容器包装プラスチックですが、ペットボトルは独自ルートで容器包装プラスチックは日本容器包装リサイクル協会へ引渡しているということですか。

小澤担当課長：そうです。

深野会長：マテリアルリサイクルを比較する際は、現状の方法で比較するということですね。

小澤担当課長：そうです。

橋詰委員：サーマルもマテリアルの場合も残渣をどのように考えるのか検討した方が良いと思います。

深野会長：例えば、資料１－２の容器包装プラスチックの課題に残渣 54 トン焼却とありますが、この残渣をサーマルと含めるのか、どのように考えるのか検討していただきたいと思います。現状はどう処理されていますか。

小澤担当課長：中間処理施設から出た残渣は市の焼却施設で処理しています。残渣の考え方については、調整していきます。

深野会長：どのような方式で算出したということを明記するようにしてください。

小澤担当課長：他市での参考となるような事例があればお教えてください。

牧田委員：行政のリサイクルとは違うかもしれませんが、企業の取組みは様々あると思います。衣料品メーカーが自社の衣服を回収している企業や、私は蒲鉾の製造をしていますが、魚の残渣は独自の回収業者に有機肥料にしています。企業がリサイクルに関わっている事例は増えていると思います。

保坂委員：家庭で手軽にできるようなことを、企業が率先してやっていくこともリサイクルの意識を広げるには必要かと思います。

大道委員：このように考えていくとサーマルとマテリアルだけではなくて、もう一つ項目が必要なのではないかと思います。

小澤担当課長：検討いただく資料若しくは結果については、現状の資源化を継続する、サーマルリサイクルをする、その他の資源化という考えもあるかと想定しています。

久保田委員：市民目線は一般的な家庭だけでなく、高齢者の家庭も配慮していただければと思います。他市の事例はその市の事情もあるかと思うので、一概に鎌倉市に当てはまらないとも思います。

浅川委員：一般の家庭から出ている廃棄物の分別の現状は、かなり限界に近いと思います。粗大ごみに出された中で、まだ使えるものを市民にお分けする取組みはしていませんか。

瀬谷課長補佐：保管する場所がないため、実施していません。粗大ごみとして持ち込まれる前に、不用品登録制度をご案内しています。

奴田委員：サーマルとマテリアルのイメージが漠然として感じます。まずはサーマルとマテリアルの項目で考えていくことが必要であると思います。

深野会長：その他の資源化などについては、別掲の中で書かれていくものと思います。

小澤担当課長：現行のマテリアルリサイクルとサーマルリサイクルにした場合とを比較していく中で、その他の資源化の方法があれば提示させていただければと思います。

深野会長：エネルギーの用途とありますが、具体的な用途はどのようなことですか。

小澤担当課長：発電や余熱利用等を想定しています。

奴田委員：バイオマスエネルギーとは関連はありますか。

小池次長：エネルギーをどのように利用するのかは、整理してお示ししたいと思います。

奴田委員：新しい焼却施設では、以前お話しした銭湯等のような施設での利用を考えているのか、バイオマスエネルギーのような売電等まで広げて考えるのか気になったのでお聞きしました。

深野会長：評価項目は、表にしてわかりやすくしていただきたいと思います。

奴田委員：資料１－１で平成20年度に１人１日当たりのごみの排出量が減少している理由は何ですか。

瀬谷課長補佐：リーマンショックを始めとした経済状況の影響と考えております。

小池次長：粗大ごみの改定があったことも要因の一つと捉えています。

## 議題 ２ 市民意見の調査について

深野会長：パブリックコメントとは別に調査するということですか。

小澤担当課長：別に実施する予定です。

深野会長：ある程度の素案の形ができたところで意見を聞くのがよいとも思います。

大道委員：誰でも簡単に答えられるように、質問項目は選択式にさせていただきたいと思います。また、市民の方が選択を判断するための情報を載せていただいて、かつ集計しやすい方法を考えていただく段取りが必要だと思います。

深野会長：今やっているリサイクルについて、単刀直入に、協力していますか、難しいですか、拡大する品目がありますかというようなわかりやすい項目から入ったほうがよいと思います。

小澤担当課長：今回はアンケートという方法でよいかをご審議いただくため、設問まではご用意しませんでした。もしアンケートを実施する場合には、誰もが答えやすく的確に、ある程度の仮説が成り立たせる材料が集められるような設問にしたいと思います。

浅川委員：市民の皆様に知っていただいて、そのご意見をよく聞いて、市の施策に反映していくことは大切だと思います。できるだけ早く調査していただいて、その結果を参考にして議論を進めていくのが良いかと思います。

久保田委員：アンケートには市民から様々な反応が返ってくると思います。相当難しいと感じます。

保坂委員：分別には協力しているけれども、日ごろ溜まっている不満もあるかと思っています。そのような意見も反映される設問にさせていただきたいと思います。現在の分別のあり方を見直して、より皆さんが協力しやすい分別にしていくためのものだという目的をしっかりと位置づけることが必要だと思います。

深野会長：市民の方には今回は新焼却施設に向けた調査であることをわかっていただいて、回答をしていただかなければならないと思います。現在の分別についてどのように思っているのか、どのような期待があるのかということは伺いたいと思います。

小澤担当課長：アンケートを実施する場合には、目的を理解していただけるよう留意してまいります。

亀山副会長：戸別収集や有料化を議論する際に、廃棄物に関する市民意識調査をしたことはありますか。

瀬谷課長補佐：全市民を対象にしたものは、戸別収集・有料化の全市実施に向けて条例改正に係るパブリックコメントをいただいています。その他ですと、平成24年度に実施した戸別収集モデル地区の3地区の方を対象にアンケートを実施したことがあります。

亀山副会長：今の鎌倉市の分別の方向の是非を聞くアンケートは実施したことが無いということでしょうか。

瀬谷課長補佐：分別について特化した調査は、実施したことはありません。

亀山副会長：一回調査してみても良いのではないかと思います。時期は早い方が良いと思います。分別がわかりにくいということだけではなく、分別方法はわかるけれど、頻度が少ないことや、取り外しづらい等、分別のやりづらさという不満を、分かりやすく回答していただける工夫が

必要だと思います。

深野会長：分別する際の出しにくさがどのような点にあるのかが聞き取れると、新たな施策のなかで対応の仕方のヒントになるのかなと思います。

浅川委員：調査の方法や項目は難しいところがありますが、市民の意見をどのように反映していくのかは重要なことだと思います。市民の方の意識を知りたいということが伝わるような調査にしていいただければと思います。

深野会長：意識を誘導しないよう留意が必要ですが、新焼却施設の整備がきっかけであることはきちんと伝える必要があると思います。燃やすためではなくて、どのように資源化するのがよいのか検討するために、ご意見を伺いたいということかと思います。意識調査の質問内容については事務局案がもう一度出されるということですか。時期的には早い方がいいということですがいかがですか。

小澤担当課長：次回お示しできればと考えております。

佐藤担当係長：個人情報の手続きがあり、アンケートの実施は最短で2月下旬から3月上旬になります。

## 報告事項 1 戸別収集・有料化について

牧田委員：市民の立場としては、戸別収集・有料化をやりますと広報していた中で、検討中ですとなった報告を新聞情報だけで伝えるには周知が足りないと思います。当初の予定と同じようにはできませんというお知らせは、きちんと周知が無いと市民を迷わせると思います。

深野会長：現状が予定とは異なっているという報告を市民にすべきではないかということですが、いかがですか。

谷川担当課長：今の対応について、説明会を開催する予定です。また、広報で早い時期に状況を市民の皆様へは報告したいと思います。

奴田委員：代替の減量策がないまま費用がかかるという点だけで反対している意見が多いように思います。審議会としては有料化するという事で進めてきたので、市は反対意見の理由を分析したうえで、対応することが必要だと思います。

大道委員：現実として、戸別収集・有料化が7月から全市実施を目指しますということで自治・町内会の掲示板に貼ってあるところもたくさんあると思います。実施されると思っている人も多いです。今の状況を何らかの方法で市民の方へ知らせていくべきだと思います。

石井部長：その通りだと考えております。今後、市としてもどのように整理をしていくかを明確にして、市民の方にきちんとしたご説明を早急に行っていきたいと考えています。

深野会長：反対意見の理由を分析した上で、市民の方へ今どうなっているのかということの周知をぜひお願いします。

## 報告事項 2 ごみ焼却量について

深野会長：ご意見ご質問はありますか。

全 員：特にありません。

以上